

## 長谷川湊二郎展を終えて



新年早々1月7日より始まった「長谷川りん二郎展」が24日間の会期を終え1月30日幕を閉じました。

今回の展覧会は初の官民協働企画としてOMP（おだわらミュージアムプロジェクト）と文化庁生涯学習課郷土文化館による実行委員会形式で実施されました。また開催に当たり一昨年初の公立美術館巡回展を実現された平塚市美術館館長代理土方明司氏、文化庁生涯学習課専門監山口博学芸員の全面協力を頂き、『良い絵を良い環境で楽しむ喜び』を第一に準備を進めてきました。

美術展の開催を支えてくださったのは多くのご協賛者です。小田原の企業、美術関係者、文化人と共に一般のアートファンのお名前は図録に掲載されています。OMPメンバーと共に運営を支えたのは21名のボランティアスタッフです。仕事の傍ら休みを返上して会場を守ってくださった方も多く、温かいおもてなしを受けた気持ちになった展覧会だとの言葉を頂いたことは、有難いことでした。

期間中、土方明司氏による講演会、ギャラリートーク、OMPによるギャラリートーク、鶴葉亭での呈茶も、大変に喜んでいただけただけの企画でした。初日の講演会は事前応募者49名、当日申し込み者を合わせ81名が1時間半の講演を楽しめました。14日のギャラリートークも41名の参加となり、改めてアートファン健在の手ごたえを感じました。又、連日早朝より熱心に手入れをされている職員のおかげで大変美しい庭園、茶室が維持されている会場は、展覧会とともに小田原の魅力として多くの方に称賛を頂きました。鶴葉亭での呈茶にも130名の参加を頂き、お茶の合間に交わす一期一会の対話から情報交換できたことも大きな収穫でした。

告知については早くから準備した「あの猫に会いたい」のポスター・チラシの効果は大きく、小田原市広報の表紙をはじめ、新聞4紙、情報誌、NHK文字情報、小田原ケーブルテレビ、新九郎通信の視覚情報のほか、ネット、ブログ、中でも友人・知人による口コミを通して知って頂いたようです。24日間で2375名のご来場を頂いたことは、OMPにとっても大きな手ごたえを感じています。アンケートによると、市内と市外の方の比率は半分ずつで、東京はじめ栃木、埼玉、静岡、愛知、京都、福島等県外の方も多く来られました。やはり良い作家・作品の展覧会には遠くからでもお客様は来て下さることが実感できました。年齢的には50代~70代の方が70%をしめ、シルバー世代がこのような場を求めていることもよく感じとれました。今回の展覧会は長谷川湊二郎の作品の魅力と共に、松永記念館の落ち着いたたたずまいと庭園、茶室を含む名園の雰囲気を楽しむ声も多くありました。また展覧会については大変良かった又このような企画をこれからも定期的にやってほしいという声も多くありました。施設面では課題となる問題も見え、アンケートは大変有意義なものがあつたと思います。この結果を踏まえ今後の活動に生かしていきたいと思えます。

### 【アンケートの感想より】

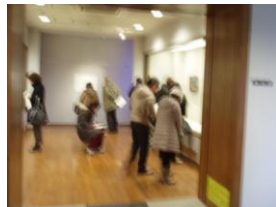
《自分自身の体験に重ね合わせて》

○学生時代の友人が以前に湊二郎の猫の絵ハガキを2度も送ってきた事があり、それ以来「あの猫に会いたい」と思っておりまして。今回新聞に載っていたので飛んできました。絵の中に子供時代に住んでいた荻窪や代々木風景（少し時代は前ですが）を見つけてまたまた嬉しい気持ちになりました。

○以前飼っていた猫に似てびっくりしました。あの時の様子が浮かんできました。（亡くなった）来て良かったです。（30代 女性）

○叔母がこの「猫と毛糸」を見ると、何度も何度もくりかえし、自分の子供の頃の思い出を話すのだった。輪にして、ねじった状態の毛糸のことを「かせ」といい、昔は毛糸は巻いた状態で売られてなくて、このかせで売られていたそう。叔母の母は編み物好きで、よくこのかせの毛糸から毛糸玉に巻くために両手をかせの輪の中に入れて、巻き取っていくのを手伝ったというのだ。その懐かしい光景を思い出すというのだ。（ブログより）

○49歳を過ぎてからの作品が明るく感激しました。定年を迎えた私としてはずいぶん勇気づけられ頑張ってみようと思いました。（60代 男性 小田原）



《初めて知りましたという方も多くいました。》

○この展覧会によって長谷川湊二郎を知ることが出来たことを喜んでます。昭和初期林不忘の名前で広く知られていましたが、長谷川の名は今に至るまで埋もれていたのでしょうか。重厚な中に新味と幻想視のあるのはこの一家の芸術家の血を感じました。（70代男性）

○本当に感動した。きいたこともない画家の方だったが、長谷川さんが描いているところが目に浮かぶようだった。14歳、という人生の最初の方でこんな素晴らしい絵に出会えてよかった。これからも色々な作品にふれていきたい（14歳、女子中学生）



《場の良さ》

○周囲の景色を含めて一体となった展示でした。初めて板橋を歩きましたが、この地で湊二郎展を拝見するとは思いませんでした。



ありがとうございます。平塚美術館より落ち着いた自分の絵画として満足です。（50代 女性 秦野）

○長谷川さんの絵は静かで心に染み入るような絵でこのようなこじんまりとしたお客もそれほど込み合わない様な場所で見るとちょうどよいと思います、またこのような展覧会をやってください。）

○湊二郎が静物を描いたちょっと後に私は生れています。絵を見てから外へ出て松永記念館の風景に触れると湊二郎の絵の中にあるような心地になりますね。不思議な思いです。一つ一つがこんなに丁寧に美しく細工されていたのかと。私が欲しいのは、静かで柔らかくて温もりのあるこの画のような落ち着いた暮らしなんじゃないかなと。少なくとも、町にそんなひと時があつてほしい。（30代 市内）

《企画の良さ》

○すみきった精神性と不思議な静けさを感じました。その湊二郎の作品と出会う場にふさわしい松永記念館のたたずまいで静かに絵を見ることができました。絵から発する静かだけど深いことばを受けとるのに、こういう施設はありがたいです。「おだわらミュージアムプロジェクト」という人の手のぬくもりが感じられるパワーで、展覧会を実現させたスタッフの皆さんがまたすばらしいと思います。ありがとうございます。

○湊二郎の文章が添えられているのがとても良い。まさしく文章は湊二郎の世界のような気がします。

○落ち着いた雰囲気での展示で良かった。作者の言葉の展示も良く、また年令順の展示も良かった。小田原の広報の表紙にのせることがすばらしい。官民協働がいいですね。入場料ももちろんいいです。気軽に来れます。

○松永記念館のようなコンパクトな展示場も良いと思う。これからは、たくさん作品をいっぱい見て、というよりは、数点の作品にじっくりと向き合い、作品との対話を静かに行う場が求められていると思う。今日の長谷川展は、この性格に合った展覧会だと思う。場が無いから美術が楽しめないのではなく、「発想が無かったから」ということが良く判った。この場を活用した企画を考えれば良いではないか。内容はとても良いと思う。

《落ち着いたりました》

○とても今日は癒されました。絵の周りに流れている風の速さや温度が違いやさしい気持ちになりました。何かとても得をした気分です。（50代 女性 小田原）

○自己中心に生きている私にとって素晴らしい感性を持っている人柄にふれさせて頂いて心穏やかになりました。（60代 女性）

○とても豊かな時を過ごすことができました。絵の中に漂う清澄な空気が心の奥底まですうっと入ってきたような感覚に包まれました。自分自身が筆を持つのでなくともりん二郎のように静かにスッと立つような姿勢を心がけてあらゆるものに対していきたいと思えます。施設自体バツリの街もとても良い所ですね。又ぜひ伺いたいと思えます。

《スタッフの対応》

○スタッフの方も丁寧で良かったです。看板のおかげで迷わずにここまでたどり着けました。（私方向音痴で地図が読めません）ありがとうございます。

○温かいスタッフの対応に感謝！居心地がいいです。

